

## 2016 年（平成 28 年） 段ボールの需要予測

全国段ボール工業組合連合会

### 2016 年（暦年）段ボール需要予測 13,900 百万㎡ 前年比 101.2%

2015 年の国内経済は、前期比 GDP 成長率が 4-6 月はマイナスだが、7-9 月は 1.0%増に上方修正され、景気は回復基調にあり、10-12 月期はプラス成長と予想されている。民間調査機関が 11 月に公表した 2015 年度実質 GDP 予測伸長率は 0.9%程度となっている。

2015 年の段ボール需要は、1-3 月は昨年 of 消費増税前仮需の反動で前年を 3%強割り込んだが、4 月以降は前年を上回るペースで推移し、1-10 月累計で前年比 100.4%となっている。2015 年 1-12 月累計では、2014 年 12 月に全段連が公表した予測前年比 101.0%を下回る前年比 100.7%程度となる見込みである。

民間調査機関による 2016 年度の実質 GDP 成長率予測としては概ねプラス 1.5%程度となっており、2016 年度は景気停滞感が解消され、輸出や設備投資が持ち直すことで緩やかな回復に向かうと見られている。

このような段ボール需要動向、経済見通しを考慮して 2016 年（暦年）の段ボール需要を 13,900 百万㎡（前年比 101.2%）と予測した。

期間別内訳は、1 - 3 月 101.3%、4 - 9 月 101.2%、10 - 12 月 101.2%と予測した。

主な需要部門別動向としては、「加工食品用」（構成比 41%）は円安による輸入食材物価上昇で食品メーカーの値上げが続くも、景気との連動性が高い業種で、調理食品や、健康志向を背景にした特保飲料や野菜系飲料も好調で、1%程度の伸びと予測。「その他」（構成比 17%）分野は紙おむつ、高齢者向けや海外向けの衛生用品、ペット関連商品等引き続き堅調で、インバウンド需要にも期待が持て、1%強前年を上回ると予測。「青果物用」（構成比 11%）は農業人口減少という構造的なマイナス要因があるが、食の安全問題での国産品へのシフトもあり、天候に左右される面が大きいだが、前年並みと予測。「電気器具・機械器具用」（構成比 8%）は円安による輸出関連需要や国内生産の増加というプラス要素はあるが、中国の景気後退や海外生産移管の影響も残り、ほぼ前年並みと予測。「通販・宅配・引越し用」（構成比 4%）は引き続きネット販売を中心に好調で、スマートホンの普及や高齢化社会が追い風になると見られ段ボール需要も増えると予測。

以上

### 段ボール生産量推移

